

令和元年 第3回定例道議会 9月24日 一般質問  
 ～北海道議会 会議録より～

三. 幼児教育・保育の「社会」化と森のようちえんなど自然保育の推進について

質 問	答 弁
<p>(一) こどもの「育ち」や検討組織の必要性について                      (広田議員)                      本年10月から、幼児教育・保育の「無償化」がスタートをしますが、まず、無償化という表現に大きな違和感があります。送料無料もそうですが、この世にタダのものはありません。                      この間のいわゆる「無償化」に関する議論経過を見ても、子どもが真ん中ではなく、公立・民間の別、保育所だ、幼稚園だ、そんな大人の事情で議論が展開をされています。                      北海道の子どもの「育ち」を応援するために、社会全体の責任として、どのような環境整備が必要なのか、その本質の議論が欠けていると言わざるをえません。                      親の状況に関わりなく、学齢前からの幼児教育・保育を社会的責任として保障することの必要性を、無償化のスタートにあたって、「無償化」のスタートにあたって、知事として明確に表明すべきであり、また、北海道の強みを活かす子どもの「育ち」について、道庁内の縦割りを超え、民間有識者、現場実践者も含めた議論の場の設置が重要と考えますが、見解を伺います。</p>	<p>(知事)                      幼児教育についてであります。幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる極めて大切な時期であることから、全ての子どもたちに質の高い教育を提供することが重要であります。                      道では、これまで、総合教育会議の場などにおいて、有識者のご意見をいただきながら、今後取り組むべき施策の方向性などについて幅広く協議するとともに、本年6月には、道教委と連携して幼児教育推進センターを設置するなど、教育の質の向上に取り組んでおります。                      道といたしましては、今後とも、北海道に暮らす全ての子どもたちが心身ともに健やかに成長することができるよう、幼児教育の充実に努めてまいります。</p>
<p>(二) 森のようちえん、自然保育などの推進について                      (広田議員)                      保育、幼児教育の量よりも質の向上に関し、私は、ここ数年来、子どもたちの外遊び環境の保障について疑問を重ねてまいりました。                      豊かな自然環境に溢れている北海道ですが、残念ながら子どもたちの外遊びの時間は非常に少ないのが現状です。                      既に、森のようちえんや自然保育について、何らかの認証や支援制度を創設し、それを県内外に積極的にアピールしている、長野県、広島県、鳥取県などでは、子育て世代だけではなく、保育士などそこで働く方たちの移住定住促進の成果にもつながっています。道内でも上川管内鷹栖町や中富良野町、東川町などを中心に同じような成果があります。今回、園舎を持たないアウトドアで幼児教育・保育を行っている自主保育においても、一定の要件のもとで、いわゆる無償化の対象とするに至った中央政府の判断の過程には、長野県のこうした実践が大きく貢献したと私は認識しています。                      本来、北海道こそ、こうした森のようちえんや、自然保育、野外保育など、子どもたちの外遊び環境を保障・推進する旗振り役として、現場の実践や人材育成などを強く支援していくべきと考えますが、知事の見解を伺います。</p>	<p>(総合政策部長)                      自然環境を活かした幼児教育についてでございますが、優れた自然環境を有する北海道におきまして、子どもたちが、豊かな自然の中で様々な体験をしていくことは、幼児教育におけます大切な取組のひとつでありますことから、「北海道幼児教育振興基本方針」におきましても、自然体験活動の一層の促進を、道と道教委の施策として位置付けてございます。                      道といたしましては、他県や市町村におけます先進事例について、積極的な情報収集などに努めますとともに、研修の機会を通じ、自然体験活動の意義につきまして、保育者の方々に対し指導・助言を行うなど、本道の子どもたちの健やかな成長に向けて、引き続き、取組を進めてまいります。</p>
<p>【再質問】                      (二) 自然保育の推進などについて                      (広田議員)                      まず、子どもの育ちに関する有識者会議の設置ですが、知事からは、総合教育会議において幅広く有識者のご意見を伺っているとのことですが、私が求めたいのは、全般的ではなく「北海道でなければできない「子どもの育ち」」についての検討の場です。                      私は、北海道における「子どもの育ち」の大きな柱となりうるものとして、森のようちえんや自然保育の推進を、北海道の強みとして、道の政策の柱に明確に位置づけるよう何度もこの議場で申し上げているわけです。                      総合政策部長から、他県における先進事例について積極的な情報収集に努めるとのご答弁でしたが、ささやかではあります。道議会の会議室を活用して、先進地の方をお招きして勉強会を重ねてまいりました。</p>	<p>(知事)                      自然環境を活かした幼児教育についてでございますが、豊かな自然の中で様々な体験をしていくことは、幼児期の教育における大切な取組のひとつであると考えております。                      道といたしましては、道教委と連携をして、他県や道内の実践事例について研究を進めるなど、北海道の優れた自然環境を活かした子どもたちの体験活動の充実にも努めてまいります。</p>

### 三. 幼児教育・保育の「社会」化と森のようちえんなど自然保育の推進について

質 問	答 弁
<p>私は、単に、他の国や、他府県の事例をまねして、北海道でもやれやれと言っているわけではありません。</p> <p>既に、道内の現場には、他府県と遜色ない自然保育の事例があって、その位置付けを、道の政策の中に明確にすることを知事に求めているわけです。</p> <p>再度、森のようちえんなど自然保育の推進について、どのように取り組む考えか、知事の見解を伺います。</p>	
<p><b>【指摘】 こども参画の推進について</b></p> <p>関連して、こども参画について指摘をさせていただきますが、政策形成過程における子どもの参画について、少子高齢対策監から答弁がありました。</p> <p>子どもに関する政策と言えば、すぐに、保健福祉部、少子化対策となるのが、今の道庁組織の当たり前だとしたら、その当たり前こそ見直していかなければならないのではないのでしょうか。</p> <p>私としては、少子化対策だけではなく、北海道応援団会議をはじめ、SDGsの推進や、産業や雇用政策、交通政策など、道政全般において子どもの参画が検討されるべきと考えております。</p> <p>子どもの育ち、子どもの参画など、いわゆる子ども政策について、北海道として、厚労・文科の枠を超えた検討が、民間の実践者も含めて、新知事のもとで必要であると指摘をしておきます。</p>	
<p><b>【指摘】 自然保育の推進などについて</b></p> <p>子ども政策ですが、森のようちえんや自然保育の体験活動について、なぜ私が何回も重ねて言うかと申しますと、最初にこの森のようちえんや自然保育の活動について、私が学びに行ったきっかけというか、勉強をしたきっかけは、北海道の自立を考えた時に、北海道のちょうど同じモデルである北欧をいろいろ視察をいたしました。学齢前からの起業家推進教育ですとか、今、若い人たちが様々な活動をしています。マニュアルどおりに育てていく子どもではなくて、子どもの時から外の中で、自然の中で、子ども同士で群れて遊んで、何かに答えを探すのではなくて、自ら問いを立てられる、そうした教育が自然体験活動の中で、しっかりと培われておりました。</p> <p>このことを、ですからさっきも言っているのですけれども、他の県で、他の国でやっているからやれと言うのではなくて、既にもう、例えば、木育発祥の地である北海道ということで、木育ということでいろいろな実践が進んでいたり、自然学校や森のようちえんなど、北海道の中で、そういうふうに点在して実践をしている人たちになぜ光を当てないのか。知事は、ピンチをチャンスにとおっしゃいましたけれども、その元々のチャンスを潰すのでしょうか。そういうこの子どもたちの体験活動をしっかりと応援していくこと、そして北海道の強みを活かす人材育成について、知事がしっかりと、ご判断をいただくことを指摘とさせていただきます。</p>	